

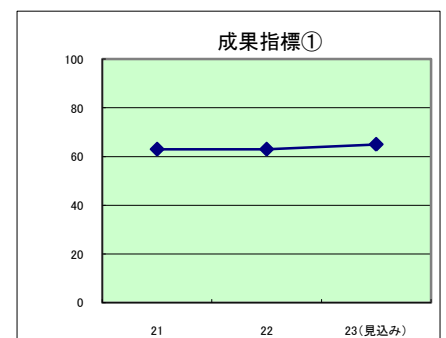
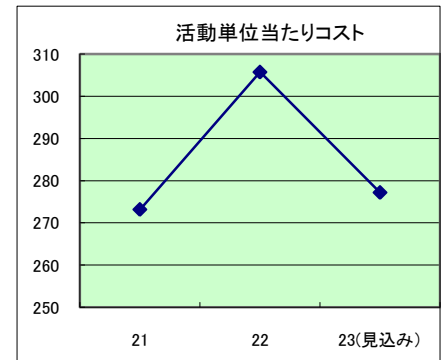
平成 23 年度 事務事業評価シート(平成 22 年度実施事業)

整理番号

総管08

事務事業名		公共施設循環バス運行事業		会計	1	一般会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	5	信頼に基づく市民とともに作るまち	款	2	総務費	
	施策(節)	3	行財政運営	項	1	総務管理費	
	施策の方向			目	6	財産管理費	
				事業	2	車両管理	
関連する計画等				作成部署	総務部管財用地課		
事業の目的	対象(誰を・何を)			連絡先	072-958-1111 内線 1900		
	不特定多数の市民						
	意図(どういう状態にしたいのか)						
事業の内容	公共施設循環バスによる施設への送迎を通じて、市民生活の利便の向上と福祉の充実を図る。						
	市役所を起点に市内公共施設及び各地区にある停留所を循環し、市民に無料で利用していただくサービスの提供をする。						
根拠法令等							
事業開始時期		☐ 昭和 4 年開始 ☐ 明確にはわからない ☒ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている		終了年度		平成 年度	
事業開始時からの状況変化		平成4年2コース・5年4月3コース・6年4月4コース・10年10月7コース・16年4月稜南の森送迎バスと統合・18年6月道の駅しらとりの郷便増便					
市民や議会の要望							
実施手法		☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先		☐ 市外郭団体委託 名称() ☐ 民間委託 ☐ その他		委託内容			

区 分		21年度	22年度	23年度	
		(実績)	(実績)	(見込み)	
事業費【1】 (千円)		7,883	9,692	9,500	
人件費【2】 (千円)		27,570	29,430	27,030	
職員数	正規職員	0.60 人	0.55 人	0.55 人	
	再任用職員	0.70 人	0.70 人	0.70 人	
	嘱託職員	9.00 人	10.00 人	9.00 人	
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間	
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		35,453	39,122	36,530	
財源内訳	国費 (千円)				
	府費 (千円)				
	市債 (千円)				
	その他 (手数料・使用料等) (千円)				
	一般財源 (千円)	35,453	39,122	36,530	
活動指標(事業の活動実績)【B】		単位	21年度	22年度	23年度(見込み)
① 年間総乗客数		人	129,785	127,947	131,785
② 1日の運行便数		便	34	34	34
③					
活動単位当たりコスト(【A】／【B】①)			273 円	306 円	277 円
市民1人当たりコスト(【A】／人口)			298 円	331 円	310 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方		平成21年度	平成22年度	平成23年度
	①	年間の平均乗車率	%	循環バスを効率良く運行する。	目標	65	65	65
		(式) 乗客数÷座席数(204.152席)×100			実績	63	63	
	②	(式)			目標		達成率(%)	
					実績			

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	平成4年度より実施しており、市民の足としても定着している。また高齢者対策としても必要な事業である。

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	午前便は常に乗車定員に近い利用があり、市民ニーズが高い事業である。また、近隣他市との比較では非常に充実した内容である。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☐	☐	☒	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	バスの台数及びルート数からは、最小限の人員で行っている。また、運転手は嘱託職員を充て人件費の抑制を図っている。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☐	☒	☐	
	有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	年間総乗客数が約13万人あり、高齢者等の交通弱者に対する貢献度は非常に高い事業である。なお、今後は収入確保の観点より、広告募集等の導入を図る必要がある。
		上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☒	☒	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☒	ルートや停留所については、可能な限り利用者の意見を反映している。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	乗車率が100%となれば、常に積み残しが生じている状態となるため、目標値の設定は適正である。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☐	☒	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☒ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	循環バスは市内全域をカバーしており、ほぼ全てのルートで多くの方に利用され、満員となることも多々有るほど市民ニーズが高い事業であり、運行方法の見直し等の対応は難しい。しかし、最少の支出で最大の効果を得るための方法改善は必要である。 今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など) 現在の利用者の多くは公共施設循環バスの認識でなく、日常の公共交通機関として利用されている。そのような背景を踏まえ、現状のサービスを維持するため、収入確保を図ることにより経費の支出を出来るだけ抑制し、効率的な運行に努める。	
	行革本部評価	
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	評価理由・意見